

2008

10

No. 37

Miyakojima City  
Public Relations

広報

# みやこじま

## ◆特集◆ ゴミ有料化から半年…



## リハーサルでも 真剣勝負！

～サントピア沖縄「南部忠平杯」  
グラウンド・ゴルフリハーサル大会～

8月31日、サントピア沖縄「南部忠平杯」  
グラウンド・ゴルフ宮古島大会を宮古から盛  
り上げていくことを目的に、リハーサル大会  
が行われました。

今回が初開催となるこの大会には、宮古の  
グラウンドゴルフ愛好家たちが多数参加。会  
場となった前福多目的広場では、自分や仲間  
たちのプレイに一喜一憂しつつも、本番さな  
がらの緊張感のあるゲームを楽しみました。

本番のサントピア沖縄「南部忠平杯」グラ  
ウンド・ゴルフ宮古島大会は、11月に開催さ  
れる予定です。

### 今月の主な内容

◆特集◆ ゴミ有料化から半年…

……P2

宮古島のわだい

……P6

お知らせ（秋の行政相談所開設 ほか）

……P8

■ホームページ <http://www.city.miyakojima.lg.jp/>





# ごみ有料化から半年…

今年4月からスタートした「指定ごみ袋・ステッカー制度」は、多くの市民のご理解とご協力により、大きな混乱も無く順調に進んでいます。  
制度実施からおよそ半年経った現在は、どのような状況であるかを報告します。

## ◎制度実施前と実施後の変化

指定ごみ袋・ステッカー制度の実施後、現在まで最も大きな変化のひとつは、燃やせるごみ・粗大ごみの減少があげられます。

下記の通り、ここ半年のごみの量と昨年の同じ時期のごみの量を比べた場合、燃やせるごみがおよそ15%程度、粗大ごみがおよそ50%程度減少しています。

また、制度導入後は市民のみなさんがあらためてごみ問題について関心をもつて頂けたようで、不法投棄についての情報がこれまでより多く寄せられるようになりました。

しかし、まだ指定ごみ袋・ステッカーを使用していないごみも見受けられますので、引き続き制度の周知徹底が必要と考えられます。

10月1日からは「宮古島市クリーン指導員」の活動がスタートしています。

## ◎これからの課題

他の自治体では、一旦減ったごみの量が元に戻ってしまう「リバウンド現象」も起こっています。こうした状況にならないようにしながら、更なるごみの減量に向けて、生ごみ分別収集の地域拡大と新たなリサイクル品目の開拓などに取り組んでいきます。

一部では、まだ指定ごみ袋・ステッカーを使わず、透明なごみ袋を使ったり、放置された状態のごみが見受けられます。

で、引き続き制度の周知徹底に努めていく必要があります。

また、不法投棄問題については、制度に伴う歳入を活用して撤去事業を進めているところですが、新たな不法投棄を未然に防ぐため、パトロールの強化や監視カメラ・啓発看板の設置などを行いながら、不法投棄者には告発も視野に入れ徹しく対処していきます。

## ★家庭から出た燃やせるごみの量 (単位: kg)

	4月	5月	6月	7月	8月
実施前(平成19年度)	986,960	1,010,770	970,180	973,585	899,795
実施後(平成20年度)	831,175	807,860	785,040	814,460	871,410
増減率	-16%	-20%	-19%	-16%	-3%

## ★家庭から出た粗大ごみの量 (単位: kg)

	4月	5月	6月	7月	8月
実施前(平成19年度)	55,145	59,295	53,035	61,340	56,920
実施後(平成20年度)	93,030	26,195	28,015	33,590	24,875
増減率	+169%	-44%	-53%	-55%	-44%

## ★家庭から出た生ごみの量 (単位: kg)

	4月	5月	6月	7月	8月
平成20年度	3,170	2,740	15,500	17,630	20,080

※5月までは一部地域(1,000世帯)のみでの試験的実施でしたが、6月からは地域を拡大(5,000世帯)しています。今後も随時拡大予定です。

## ★平成20年度指定ごみ袋・ステッカー制度 概算表

【歳入見込 … 約7千万円】

○指定ごみ袋・ステッカー売上 約7千万円

【歳出見込 … 約6千万円】

○経費(ごみ袋製造、ハンドブック作製費、広告費など) 約2,300万円

○指定ごみ袋制度事業費

- ・生ごみ分別収集事業 約2,050万円
- ・し尿処理適正化事業 約900万円
- ・不法投棄対策事業 約250万円
- ・海岸清掃事業 約30万円
- ・道路植栽マス 草本植付事業 約470万円

今後ご協力をよろしくお願い致します

環境保全課長 饒平名功

宮古島市は、美しい海や砂浜、緑豊かな自然環境を誇り、毎年多くの観光客が訪れています。

その一方で、経済の発展に伴い、豊かで利便性のある生活を手に入れたものの、代償として環境に大きな負担を与えているのも事実です。

特に、ごみ問題については、全国の自治体がさまざまな対策を打っているところであり、宮古島市においても、クリーンセンターの老朽化や大量の不法投棄などの問題を抱えています。

こうした問題は、行政だけで解決できるものではなく、市民のみなさん一人ひとりが認識を深め行動していくことが問題解決の大きな力となります。

4月からスタートした指定ごみ袋制度は、市民のみなさんのご協力により、大きな混乱も無く順調に進んでおり感謝申し上げます。制度の目的の一つである、ごみの減量化を図りながら、歳入を活用し不法投棄ごみの撤去や草花植え付け、生ごみの分別収集などいろいろな環境事業を展開しているところです。

今後とも、本市のごみ問題をはじめ、環境保全、環境美化のための施策にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



◆添道地区  
撤去前 →  
撤去後 ↓



◆荷川取地区  
撤去前 →  
撤去後 ↓

**不法投棄撤去作業**  
今年、友利地区や添道地区など、計13箇所での不法投棄されたごみの撤去作業を実施し、合計2840トンのごみを撤去しました。これからも随時実施予定です。



# 「市川市宮古島市職員交流」による研修内容をご報告します

日本におけるIT自治体の最先進都市といわれている千葉県市川市に、6月から8月までの3ヶ月の間、宮古島市交流職員が派遣され、同市の情報政策部でIT施策を主とした研修が行われました。同市における優れた電子自治体のシステムと、研修内容を「研修報告書」より抜粋して掲載します。

市川市データ(H20.8月現在)  
 ☆人口：472,597人  
 ☆面積：56.39km<sup>2</sup>  
 ☆密度：8,381人/km<sup>2</sup>  
 千葉県の西北部、江戸川を挟んで東京に隣接した位置にある、千葉県の主要都市の一つ。宮古島市とは、2005年、ともに健康都市連合日本支部の発起人となったことが縁で交流が始まった。

## ◇市川市の電子自治体について◇

市川市は、ITをツールとして「市民が便利で快適、安全・安心に生活できる」電子自治体を目指し、申請や手続きなどを市役所に足を運ばずとも利用できる電子窓口、市民の要望・意見を集約するマーケティングなど、Webサイト上に電子市役所の構築を行っています。

### ◆電子窓口

自動交付機による交付は住民票の写しや印鑑証明、税証明書などが一般的ですが、市川市は予防接種証明など需要の少ない証明書類にも対応可能なスキャナを活用した汎用性の高い電子申請・自動交付システムを開発しました。交付証明書類自体はまだ多くありませんが、容易に拡充ができるシステムです。

### ◆IT講習会

市民誰もがインターネットやメールを利用して電子自治体に参加できるように、毎年IT講習会を開催しています。市内の公民館等にあよそ400台の講習会用パソコンが設置され、13年度からの7年間であよそ33,000人の市民が基礎講座を修了しました。

### ◆「ISO27001」の取得

市川市は、市民の信頼と情報資産の安全確保を目的に、ISO27001を全課が取得している日本で唯一の自治体です。ISO27001とは、情報資産の安全確保に関する世界標準規格のことです。

### ◆広報(Web上での動画配信)

紙媒体と違い、全国に容易に発信できます。

### ◆おわりに

現在、宮古島市は合併後の人口規模に見合った職員定数に向け職員削減に取り組んでいます。そして、職員が減っていくなかで市民サービスを低下させずに、今後も多様・拡大していくであろう行政事務を行うためには、庁内業務と市民サービスにおける電算システムの新たな構築・改善と各課におけるITを意識した業務改善が必要と考えられます。

それらに取り組むにあたり、市川市で実際に構築されている施策やシステムを大いに参考にし、より宮古島市民のニーズに合ったシステムを再構築していくことが重要だと考えられます。

### ◆市民マーケティング

ホームページやメールを活用し、施策への市民参加を促すための各種取り組みを行っています。

#### (1)市民ニーズ

市ホームページの各ページにある「ご意見・お問合せ」のこと。メールでの回答や集約・分析を行って施策に反映させていく

#### (2)e-モニター

モニター登録した市民を対象に、メールでアンケート調査や意見の収集を行うシステム

#### (3)パブリックコメント

市の政策案や資料を公開し、直接市民の意見を募集

### ◆電子自治会(市民協働)

情報発信と地域コミュニティの活性化を目的に、自治会にパソコンとWeb作成手段を提供します。

### ◆その他の先進的施策や制度

市川市には、ITに限らない先進的でユニークな施策や制度も多くありました。いくつかを紹介します。

#### (1)1%支援制度

ボランティア団体やNPOを指定し、その活動資金に自分の市民税額の1%を支援できる制度

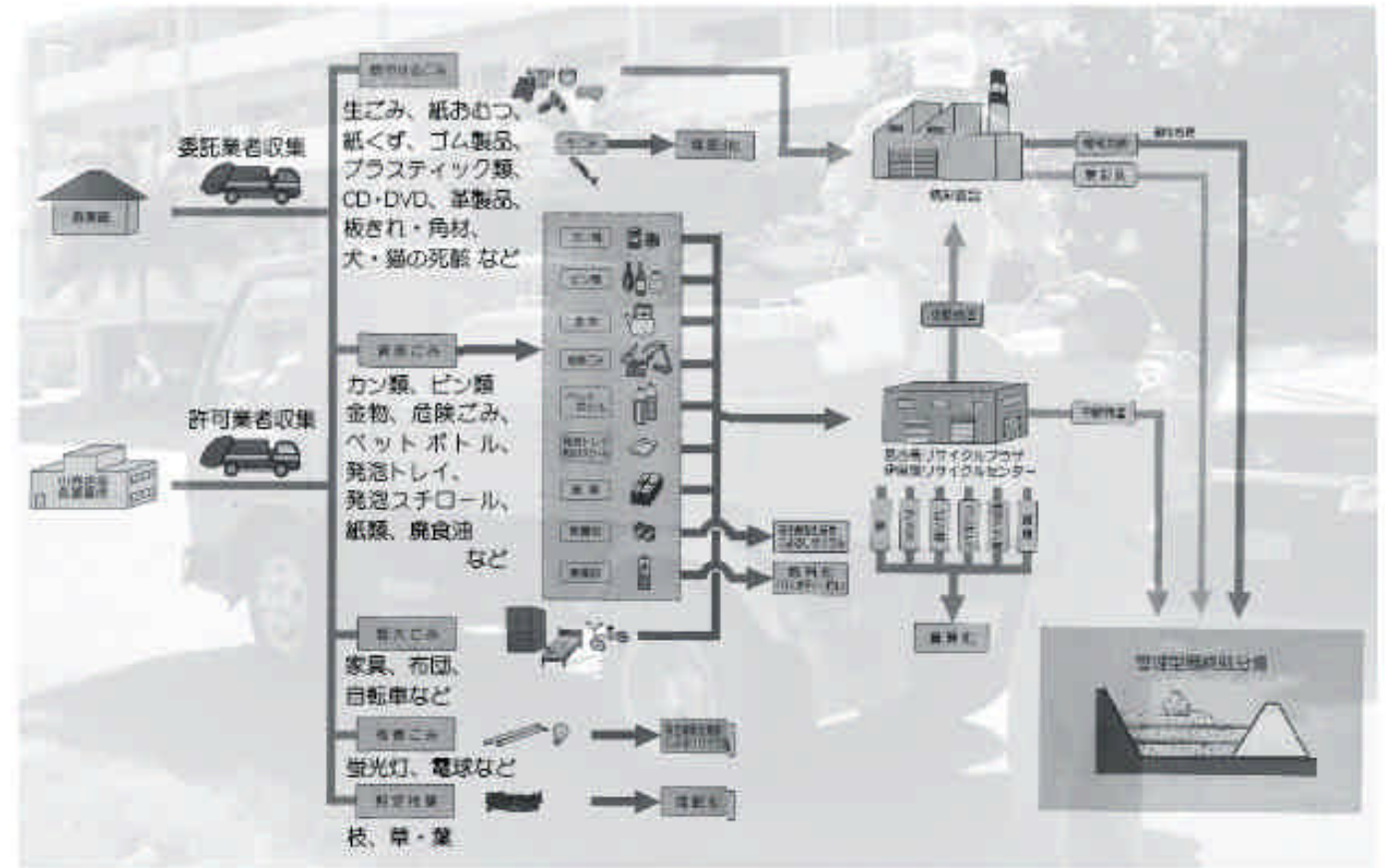
#### (2)エコポカード

市が主催するボランティア活動への参加や、空缶回収をするとポイントがたまり、動物園など公共施設の利用券と引き換え出来るカード。エコポとは「エコ+ボランティア」から生まれた造語。

#### (3)組織・事務改善

補佐・係長の廃止、予算編成や人事権の部長への委譲、新採用から部長まで役職に応じた職員研修制度、「専門員」など多様な雇用形態、ABC(活動基準原価計算)やBSC(バランススコアカード)による事務改善、監理課による積算業務の適正化、電子入札による一般競争入札の推進など

## ◇宮古島市ごみ処理フローチャート



老朽化しているクリーンセンターの現状から見ても、新しいごみ処理施設の建設は急務となっておりますが、ごみ処理経費の軽減、CO2削減の観点からも、ごみの減量は重要課題です。

また、宮古島市は今年3月に「エコア일랜드宮古島」を宣言しました。環境に対する市民の意識向上にもつながっており、ボランティア清掃の申込は105件(8月現在)で、「島をきれいにしたい」というみなさんの思いが感じられます。

指定ごみ袋・ステッカー制度や生ごみ分別・収集事業など、市の取り組みに今後ともご理解とご協力をお願いします。



ごみ処理施設が老朽化しています

現在、宮古島市のごみ焼却炉は老朽化(築三十年)しているにもかかわらず、毎日フル稼働状態が続いており、機器の維持管理に多大な経費と労力を費やしています。

新ごみ処理施設の建設には最低五年かかるといわれていますので、それまでは現在の施設で対応していかねばなりません。きちんとごみの分別をすることは、燃やせるごみの量を減らすことになり、稼働時間を短くして施設の延命化と経費抑制につながります。

ご協力をよろしくお願いいたします。





うまかい!がまんかい!

# 宮古島の話題

[The Topics]

## シリーズ

“見上げてごらん”  
ちようと上を・・・!



### 「交通安全の願いを込めてサシバ舞い降りる」

市陸上競技場西側の入口近くに「交通安全の門」があります。この門が建てられたのは平成5年。当時の交通安全協会会長（砂川氏）が、宮古島の交通安全を願う気持ちを形にしたいとの思いから民間企業・団体などから寄付金を募り、これに賛同した方々の厚意の表れとして出来上がったとのこと。

その門の両端に羽を広げたサシバがいます。しかし、門が完成するまでには紆余曲折があり、一筋ではいかない問題に会長は奮闘することになったとのこと。

大口の寄付を申し出る企業などもあり、資金の確保はスムーズにいった。が、当初、池間大橋の第一ゲートを候補地として希望していたところ、橋の運用上の安全が確保されないとの見地から許可を得る事ができず、次に市陸上競技場西側入口に設置出来ないか交渉するが思うように行かず、設置する場所が二転三転、現在の場所へと落ち着いたと言う事です。

さらに、門の両端には、魔よけの獅子が置かれる予定でしたが、宮古をイメージするサシバの方に軍配が上がり、安全運転を願うかのように、羽を広げる二羽のサシバが立っています。発案から設置までには、いろいろご苦労があったようですが、「交通安全の門」は、交通事故の無い安全な宮古島を願う多くの方の善意が込められています。ただ、サシバに負けた獅子の気持ちを誰が慰めるのでしょうか・・・？

一度、ゆっくり見上げてごらん ちようと上を・・・!

(サシバの情報を寄せていただきました上里さんに感謝)

【拡大：羽を広げるサシバ】



【円の所にサシバが・・・!】



一昨日の昼からカレーが食卓を賑わす。今夜はカレーうどんかなあー!? (PN. ガランマサラ 50代)

### ■「久米島紬わらび探検隊」が宮古上布調査!

夏休みの後半に、久米島紬わらび探検隊のみなさんが、宮古上布の調査のために来島しました。同探検隊は久米島の未来を担う子供たちに久米島紬に関する事やもの作りを通し、地元の風土・歴史への関心を高め、研究するところを育てる事を目的として、今年8月に結成。2年間をかけて紬の事について学んでいこうというものです。今回、二日間の日程で訪れたのは、わらび探検隊、小学5年生から高校生のみなさん11名、保護者及び関係者12名。が、市教育長の表敬を済ませた後、宮古島の文化財を探索し、上布関係施設などを精力的に見学、紬と上布の違いについて見識を深めていました。また、上布関係者との交流も行いました。

今後、調査で収集した情報を基に上布と紬の比較研究を行う予定になっています。事務局の宮良さんは、この事業に参加することで、自分が生まれ育った地域の文化や伝統、歴史を理解し、ふるさとを誇れるような子供たちになってもらいたいと、わらび探検隊に期待していました。



来島の体験



学麻刈り体験

### ◆上野のガーラバリに「双子の牛」めでたく誕生!



【生後一日目でも尻下しっかり】



【かわいいしょー】



【かわいいねー】

上野地区の西の端にガーラバリという見晴らしの良い集落があります。晴れた日には、来間島や伊良部島を望むパノラマが広がり、宮古に居ながら高原を眺めているかのような気分させてくれます。そのガーラバリで、双子の子牛が生まれました。

残暑の厳しい8月の昼間に産まれたオスとメスの双子の子牛。集落では初めてとなっためでたい出来事に飼主の与那覇さん、その夜は早速、友人や近所の人たちと双子の誕生を盛大の祝ったということです。

翌朝、取材時に居合わせた隣のおばあは、野菜のおすそ分けを持ってきながら、こう言っていました。「アバ・ウブモーウキサイガ(ありあ・大儲けだね)」と。

サトウキビの夏植えが忙し時期にもかかわらず、朝は一番に牛たちの世話をしてから農作業に出かけるのが日課。「かわいいよあ」と元気な子牛を前に顔がほころび与那覇さん。現在、8頭の牛を飼育し、年一産を目標にしているとのこと、しかし、クリアするのは容易ではないようです。

宮沢賢治作品「双子の星」の中で、双子の星の役目は、空の星巡りの歌に合わせて、一晚銀笛を吹くことですが、ガーラバリの双子の牛は、どんな役目を持っているのでしょうか。愛くるしい二頭の牛は、しばらく牛界(ぎゅうかい)の話題をふたり占めしそうです。



更年期?この胸の高鳴り、ときめき?それとも動悸?もうすぐ私50歳 (PN. 一筆娘 まだ40代)

### 道はたのメッセージ

### ～書のある道～



【書は、書家・黄庭堅 (こうていけん) の臨書で表現】



閑静な民家の車庫入口に、一篇の漢詩が筆の流れも軽やかにしたためられています。書道教室も兼ねているこのお宅は、第二給油所、南の交差点を右に折れた所にあり、通りを歩く人の目を楽させています。この漢詩は、中国唐時代の詩人“李白”が、友人と仙人のすみかを訪れた様子を詠んだ詩の一部が書かれているということです。

「歓待を受ける二人を笙(しょう)の音が迎え入れ、仙人たちの演奏が鳥のさえずりのように賑やかだ。振りかざした衣の長い袖は、笛のせきたてるリズムに軽く飛び上がるようであり、迎えた側の一人が酔って踊りだす。」と言うような内容で、この書には、我が家も人を持って成す家でありたいとの主の思いが込められているようです。遊び心で書いたものだけだと前置きをしながらも、床の間のような室内だけに「書」があるのではなくて、街中の空間に活かされ自然になじむ書があることを望むご主人。自由な発想に人としての奥行きを感じました。その日の取材は、くしくも夜、「主、曰く、このあと時間ある?これは仙人の囁きか!?杯を交わしたのは言うまでもない・・・!」

何気なく通り過ぎる道ばたにも、名もない花が咲くように、誰かのあたたかい思いがひっそりと輝いています。

### 文化庁事業紹介

担当部署：教育委員会文化振興課

### 「伝統文化こども教室」

伝統文化こども教室とは、伝統文化をこどもたちに体験、修得させ継承、発展させる事を目的として、文化庁が(財)伝統文化活性化国民協会に委嘱、実施している事業です。

### 煎茶道のお手前を子供たちと一緒に!

今回は、「煎茶道宮古こども教室」の紹介です。この教室は、日本礼道小笠原流煎茶道宮古教室、下地弘篤氏が主宰するもので、今回で3回目。煎茶道を始めて25年になるとのことですが、「伝統文化こども教室」を通して地域の子供達が、礼節を重んじることや立ち居振る舞いなど、人との関わりの中で心得ていなければならないこと、相手を思いやりを忘れずに、謙虚さを身につけること。また、道具の扱い方から物を大切にすることを学び、お茶を頂く所作の中から何か一つでも気づくことがあればと話してくれました。

煎茶道の歴史は古く、鎌倉時代の小笠原流作法を基礎とした武家作法の心得が伝えられてきたものですが、こども教室では、堅苦しくなくのびのびとお茶を飲み、お菓子をいただき会話を交わすことから始めコミュニケーションの取り方が分かるようになり、日常生活で役立つマナーも学べるとのこと。 「煎茶道の稽古そのものは非日常ですが、それを日常の場において活かして行く、その中で、お茶は折々に自分の成長を気づかせてくれるもの。それから、子供たちの心と体が自然に落ち着くよりどころになる」穏やかな時間の流れの中で、煎茶道の魅力についてお話を聞かせていただきました。

伝統文化こども教室の開催期間：9月27日から12月13日まで(毎週土曜日) 同こども教室では、多くのこどもたちが参加する事を呼びかけています。

【洗練された所作を学ぶ!】



【和気あいあいとした雰囲気】



「一筆物語」投稿者募集中です。